

理事長の『老球の細道』②

## 部活動の意義は？

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

今年度高体連地区大会の組み合わせが決まった。新年度がスタートして新入部員も加わり、学校によっては新しい顧問の先生の中で新たな闘志で大会に向けて頑張っていることだろう。また、ミニバスケットも中学校も同じように来るべき大会に向けて準備に余念がないことと思う。桜に負けないくらい部活動満開の時期だ。

高校の顧問であった頃、新年度に話すことは決まっていた。「何のために部活動をするのか?」、「バスケットボールで何をを目指すのか?」ということである。

部活動の意義については、私の高校時代の先輩が残してくれた言葉を借用する。

「部活とは何か、青春とは何かと問われれば、私は躊躇せず答えます。それは『汗』『透明な汗』であると。いま思えば、一銭にもならない汗がなぜ、現在の私にとって一番大切でかけがえのないものなのでしょう。それは流した汗の純粹さに優るものはないからでしょう。あの汗には、私の人生にとって、最も貴重なものが凝縮されています。『夢』『自分との戦い』『チームへの責任感』『チームメートへの責任感』・・・色々な、お金では買えない貴いものを身体で教えてくれた汗でした。できることならもう一度、もう一度だけでいいから厳しい練習後の冷たい水が飲みたい。後輩諸君、迷わず苦しい汗を流しましょう。苦しければ苦しいほど皆さんの人生は豊かなものになると信じています」

また、バスケットボールをプレーするにあたってはとことん勝負することを要求した。バスケットボールはゲームである。ゲームの面白さ、本質は勝負であり、勝つことだ。したがって、要求したことは勝つことにこだわりナンバーワンを目指すことであった。

真摯に勝利を目指すことで、バスケットボールから多くのことを学ぶことができる。目標を設定すること、計画を立てること、努力すること、あきらめないこと、みんなで力を合わせること等。机の上だけでは学べない人間としての大切なライフスキル（生きる力）を身につけることができる。その勝負が厳しければ厳しいほどたくましく成長させてくれる。勝っても負けてもどうでもよいなんていふ中途半端さからは得るものは何もない。

勝ったチームだけがそのようなライフスキルを獲得することができるのか。それは違う。負けたチームでも勝利を求めて真摯に努力すれば、勝ったチームと同じようにライフスキルを身につけることができる。大切なことは結果ではなくて経過。勝利を求めた真剣な努力の経過。勝っても負けても人生の大切なライフスキルはそこからしか学べない。勝利を得ることがすべてではなく勝利を追いかけることがすべてである。

各チームの顧問の先生方に告ぐ。畑の作物にとって最高の肥料は何か？生産者の足跡である。足繁く畑に通い作物の状況をチェックしてくれることが作物の成長には一番なのだ。選手の成長もしかり。顧問の先生が足繁く体育館のコートに通うことで選手は育つ。どうか顧問の先生方は、時間のやりくりを上手くしてコートに出れる時間をたくさん作ってほしい。

今年度も各カテゴリーにおいて、どんなチームが台風を起こすか楽しみである。